

岩手郡医報

平成6年3月 No.44

編集 発行

岩手郡医師会

題字 雫石町高橋孝先生



「ワープマシンでいく雪のワンダーランドー恐竜の国」

第27回岩手雪まつりは、雫石町小岩井農場において2月5日開幕した。昨年の雨にたたられた雪まつりとは違い、今年は雪も豊富で、雪像作りも順調に進み「ワープマシンでいく雪のワンダーランド——恐竜の国」のテーマのもと、恐竜や人気アニメのキャラクターなど19基の雪像が立ち並び、また「かまくら」では家族づれでの名物ジンギスカン料理を楽しむ光景がみられた。

始まって最初の日曜日の2月6日は、青空の広がる暖かい気温（盛岡で6.4℃）に誘われるように過去最高の5万8千人（1日当り）の人出で賑わったと新聞は報じていた。

訪れた人はステキな雪像の前で記念写真を撮ったり、恐竜の胴体部分からのすべり台でソリ遊びをする子供達などぶつかり合いながら楽しんでいた。

13日までの9日間、多彩なイベントも用意されている。

(M・S記)

目 次

ワープマシンでいく 雪のワンダーランドー恐竜の国……………1	療養給付改定について……………11
岩手郡医師会臨時総会……………2	特定機能病院に対する診療情報 提供料の具体的算定方法について……………11
平成6年度岩手郡医師会事業計画……………5	岩手県医師会親睦スキー大会参戦記 上原充郎……………14
平成6年度一般会計予算書……………5	随想「春をさわる」 高橋 孝……………15
平成6年度休祭日当番医予算書……………6	岩手郡医師会役員会……………16
岩手県民健康講座……………7	編集後記……………16
葛巻地区だより……………9	
第6回岩手郡地区 学校保健・安全・給食研究大会……………10	

岩手郡医師会臨時総会

日時：平成6年2月12日(土) 午後3時30分
場所：岩手県医師会館 3階 中会議室

司会 及川忠人理事

次 第

1. 開会の辞
2. 会長挨拶
3. 資格確認
4. 議長選出
5. 報告事項
 - 1) 第1回岩手県医師会生涯教育委員会について
 - 2) 第48回産業医部会幹事会について
 - 3) 第2回学校医部会幹事会について
 - 4) 第63回勤務医部会幹事会について
 - 5) その他

6. 議題
 - 1) 平成6年度岩手郡医師会事業計画
 - 2) 平成6年度岩手郡医師会一般会計予算書
 - 3) 平成6年度岩手郡医師会休祭日当番医予算書
 - 4) 任期満了による役員選出について
 - 5) その他
7. 閉会の辞
8. 懇親会 於菜園「千鳥」

2 [会長挨拶]

平成6年の新春を迎え、会員の先生方に心からお喜びを申し上げ、ご健康とご活躍を祈念申し上げます。

昨年は変化・変革の時代と言われるくらい政治経済はもとより、多くの面で激動がみられた特異な状況の連続でした。

北海道の地震をはじめ、鹿児島島の台風豪雨など天災が残した災禍はかなりなもので、とくに異常天候による凶作などの被害が頻発しました。

一方、地方自治体に端を発した汚職は国政を不安定なものにしてしまい、バブル経済が破綻して日本経済の先行きが全く不透明、不況の波は沈静化の兆しさも見えない現状です。低迷から抜け出すのは容易でないと思います。

このような状況下で、我々医師会活動は円滑に推移し、医療だけが大きな混乱もなかったことは、会員一人ひとりの善意の集積とご協力の賜物であります。

診療報酬改定ですけど、4月1日より実施がきました。

医療保険制度改正を財源とした改定は10月

に実施するという事です。改定幅は、4月1日実施分が薬価・材料費改定分(2.1%)一般財源分を加えた3.3%と、制度改正による財源をもとに10月1日改定分の1.5%で従来ベースの実質改定幅は1.2%である。

診療報酬の改定について

- 1) 診療報酬の改定幅 4.8%
(内訳) 医科5.2% 歯科3.3%
調剤2.1%

- 2) 実施時期平成6年4月1日

ただし、医療保険制度改革の内容となっている付き添い看護・介護の是正、在宅医療の推進、入院時の食事に関する給付の改革に関する診療報酬改定については、制度改定と一体に10月1日実施。

- 10月1日実施分改定幅 1.5%
(内訳) 医科1.7% 歯科0.2%
調剤0.1%

この改定幅は我々の要望に比べて乖離が大きく不満である。しかしながら医療機関の経営悪化は一刻も放っておくわけにはいかない最悪の状態でもあるし、混乱する政局の現状

では一応容認せざるを得ないと思います。

注目されていた社会保険診療報酬の事業税非課税措置は「保健医療政策との関連を踏まえつつ、税負担の公平を確保から検討する」ことで決着し、来年度の存続が決定した。

医師会の目指す地域医療の方向性についても課題は山積しているが、とにもかくにも、「正念場の年」であることには間違いありません。この一年は、我慢の年としても秋頃から陽光を見るのではないかと期待しております。

ここを乗り切るためには、全会員一人ひとりの地域医療に対する英知の集結と渾身の努力の積み重ね以外にないと考えます。

本年も医師会活動に対しまして、ご指導・ご支援くださいますよう宜しくお願いいたします。

3 [資格確認]

出席者29名、委任状提出者26名（会員数66名）によって総会は成立する。

4 [議長選出]



佐藤郁郎先生

岩手郡医師会定款には「議長を置く」という項がないため定款を改正しなければならぬが、付帯事項として追加する方法はどうかと考える。——という高橋会長の発言あり。

本日の議長は佐藤郁郎先生（葛巻病院）が指名された。

5 [報告]

1) 第1回岩手県医師会

生涯教育委員会について

上田靖彦副会長

- ① 日本医師会は会員が取得した参加証、シール等を貼る受講記録用紙、体験学習等の参加証明用の用紙、および毎日の学習を記録するメモを冊子とした「生涯教育・受講・学習記録」を日本医師会雑誌付録として配布する。

平成6年度分については平成6年3月1日号付録として配布する。

- ② 平成5年度生涯教育申告書については、参加証明を取得した時間の合計時間を記入するのみで、参加証明（参加証、シール）などは申告書に添付する必要ありません。各人が自分で保管しておいて下さい。
- ③ 「修了証の交付」生涯教育申告書提出者のうち、年間50単位以上（そのうち10単位以上は履修単位の証明が必要）を取得した者に対し、日本医師会長は「生涯教育修了証」を交付する。
- ④ 「修了証連続取得者に対する顕彰」平成4年度から6年度までの3年間連続して「生涯教育修了証」を取得した者に対し、日本医師会長は顕彰する。
- ⑤ 特殊状況に対する特別措置
僻地、離島などの特殊な状況にある会員については、各都道府県の地理的状況等に応じ、都道府県医師会で考慮し、履修単位の減免等の措置を講じることができる。
- ⑥ 平成4年度生涯教育制度申告率は岩手県では、診療所75.9%、病院他51.2%、全体で62.8%であり全国では5位である。
日本医師会全体の申告率は47.7%である。全体の申告率が年々減少し、厚生省が生涯研修制度を創設する方針を決め、来年度から検討会を設け、制度作りを進める由なので、日本医師会員は生涯教育の持つ意味を改めて問い直し、必ず申告書を提出すべきである。
- ⑦ 平成5年度生涯教育申告書を、岩手郡医師会へ平成6年4月15日までに提出下さい。

2) 第48回産業医部会幹事会について

八角正司理事

1月22日(土)午後3時から県医師会館3F中会議室において開催。

日本医師会認定産業医認定状況についての報告がありました。

全国では、26,199名（平成5年9月末）
 岩手県は、423名（平成6年1月22日現在）
 新たに、認定医をとられる方のための講習
 会は、今後設ける予定はありません。（第9
 回で激減しているため）希望なさる方は、他
 県の産業医基礎研修会を、受けられるよう、
 お勧めいたします。

日程等については、岩手県医師会事務局に、
 お問い合わせ下さい。

第16回県医師会産業医部会と

関係機関との打合せ

八角正司理事

1月22日(土)午後4時から県医師会館3F中
 会議室において開催。

関係機関から岩手労働基準局、盛岡労働基
 準監督署、花巻労働基準監督署、岩手労働基
 準協会、岩手県予防医学協会が出席しました。

その際に、産業保健センターが平成6年よ
 り発足との報告があり、また社会保険庁（厚
 生省）で検診センターを設けて、従業員50名
 未満の定期検診を行なう予定がある旨報告が
 ありました。

石川県医師会会長から、「この検診センター
 は、我々、医師会員の検診業務と競合するこ
 とが大いにあると思われるので、労働省側と
 しては、こういう場合こそ、お役所特有の縦
 割り行政を發揮して、厚生省には、協力しな
 いように要請する」との発言がありました。

3) 第2回学校医部会幹事会について

上原充郎理事

第2回学校医部会幹事会は第11回岩手県学
 校保健・学校医大会が行われたあと開かれ、
 その中で会員の方々に特にお知らせしたい事
 は学校伝染病についての取り扱いであった。

- ① 伝染性紅斑（りんご病）、手足口病、溶
 連菌感染症は学校伝染病の分類の第3類、
 その他の伝染病に入れる。
- ② これ等の3つの病気で学校を休んだ時は
 証明書を出し公欠とする。
- ③ 伝染性紅斑は顔の赤みが消えるまで休ま

せる。

- ④ 手足口病は口腔内所見、手足の所見が消
 えるまで休ませる。
- ⑤ 溶連菌感染症は咽頭、皮膚等の所見が消
 えるまで休ませる。抗生剤は約10日間の投
 与が必要だろう。
- ⑥ 各市町村で医師が同一の判定をする方が
 混乱がないと考えられるので、各地区で話
 し合いをして医師間の統一をして下さい。
 以上の通りですのでお知らせ致します。

4) 第63回勤務医部会幹事会並びに

岩手医大医局長との懇談会について

佐藤郁郎副会長

平成6年1月29日(土)、岩手医大3号館大会
 議室にて行われた。石川県医師会会長は挨拶の
 中で岩手医大の紹介患者に対する対応につき
 若干の批判、要望が述べられた。

大堀岩手医大大学長より、各教授、各医局の
 若い医師により一層の指導をなされる旨お話
 があり、又2月1日からの特定機能病院指定
 になったことに伴い、各医療機関よりの強力
 な協力方要望がなされた。

報告では谷口部会長から日本医師会勤務医
 委員会について、又、八重樫、樋口両幹事
 より、地域がん、脳卒中登録事業について報
 告がなされ尚一層の協力要請があった。

佐藤俊一病院長（岩手医大）より特定機能
 病院について説明報告がなされ、30%以上の
 紹介患者率確保、維持のための協力を求めら
 れた。

次いで関連病院と医師派遣について第一外
 科医局長、専門医認定制度につき第一内科医
 局長、生涯教育と医局員の考え方について神
 経内科医局長、大学医師から医師会に望むこ
 ととして、もう少しP.R.が欲しい旨、第三
 内科医局長より報告がなされた。

6 [議 題]

1) 平成6年度岩手郡医師会事業計画

21世紀に向けた医療の動向は、世界的な規模で変革しようとしている。疾病構造の変化、低出生率、生産人口の減少、急速な高齢化とマイナス要因が多く、プラス要因はほとんど見当たらない。国民医療体制の創造に向かって、保健・医療・福祉の総合的展開は必要不可欠である。

一方、政局は混乱、経済の低迷が続く中で医療機関の経営は危機的状況に追い込まれ、地域住民への良質な医療提供は困難を極める事態が憂慮される。

このことは医師会が当面する大きな課題であり、各領域の諸施策に対して積極的に参画し、地域の医療を守るために総意を集結しな

ければならない。

そのためには、県・郡市医師会の一層の連携と会員一人ひとりの努力が必要である。

次の事項を重点事業とする

1. 医道による濟世
2. 県医師会の事業への全面協力
3. 医政の強化
4. 有効なる地域医療活動の展開
5. 会員福祉の充実
6. 保険診療の適正化
7. 生涯教育の推進
8. 医療経営の安定への努力
9. 広報活動の積極的展開
10. 地域住民の健康教育の充実

2) 平成6年度・一般会計予算書

自・平成6年4月1日
至・平成7年3月31日

社団法人 岩手郡医師会

〈1. 収入の部〉

単位：円

科 目	金 額	摘 要
繰越金	3,810,000	前年度より繰越
会費	4,665,000	A会員 41人 3,895,000 (@95,000×41人) B会員 25人(免除3人) 770,000 (@35,000×22人)
補助金	85,000	地域医療 30,000 学校医 55,000
雑収入	25,000	預金利息
合 計	8,585,000	

〈2. 支出の部〉

単位：円

科 目	金 額	摘 要
[事業費]	(7,535,000)	
会議費	2,625,000	総会 2回 1,200,000 役員会 8回 1,000,000 総務会 8回 200,000 監事会 1回 100,000 県医総会費 1回 125,000
生涯教育費	1,500,000	医学講演会・懇談会 800,000 学校医研修会 200,000 スポーツ医学研修会 100,000 生涯教育連絡会 100,000 地域医療研修会 200,000 予備費 100,000
地域保健	600,000	各町村の地域保健懇談会 500,000 他郡市との懇談会 100,000

広報発行費	610,000	印刷費6回	400,000
		発送費6回	80,000
		編集会議費	70,000
		雑費	60,000
旅費交通費	600,000		
交際費	1,000,000		
慶弔見舞金	300,000		
広告費	100,000		
雑費	100,000		
予備費	100,000		
(事務費)	(1,050,000)		
事務費	1,050,000	事務連絡費	100,000
		通信費	200,000
		消耗品費	200,000
		印刷費	100,000
		リース料	230,000
		事務処理費	120,000
		雑費	100,000
合計	8,585,000		

3) 平成6年度・休祭日当番医予算書

自・平成6年4月1日

社団法人 岩手郡医師会

至・平成7年3月31日

単位：円

〈1. 収入の部〉

科目	金額	摘要
繰越金	1,218,000	前年度より繰越
補助金	3,777,000	
雑収入	5,000	預金利息
合計	5,000,000	

〈2. 支出の部〉

単位：円

科目	金額	摘要
報酬費	3,820,000	健康教育費 1,320,000 (@20,000×66人)
		救急対策費 500,000
		県医野球大会 500,000
		県医ゴルフ大会 200,000
		郡学校保健会補助金 100,000
		講演会・合同研修費 800,000
		厚生対策費 400,000
需要費	400,000	会議費3回 300,000
		通信費・消耗品費 100,000
旅費交通費	400,000	
役務費	180,000	印刷費 100,000
		通信電話料 80,000
予備費	200,000	
合計	5,000,000	

4) 任期満了による役員選出について

選出方法については次の選考委員により選出されそれを承認する方法が行われた。

選考委員：一般会員より栃内、三善、近藤
現役員より及川、西島、八角
現会長、副会長（3名）

委員長の八角先生より役員の発表

[岩手郡医師会新役員]

会 長：高橋牧之介(再)

副会長：高橋孝(再)、上田靖彦(再)、西島康之(初)

理 事：八角正司、根本忠夫、坂井博毅、上原充郎、嶋信、及川忠人、篠村達雅、岡本彰(以上再)、佐々木久夫(初)

鑑 事：和田栄吉、高橋克郎（以上再）

[岩手郡医師会選出役員の推薦]

- 県医師会代議員 根本忠夫、及川忠人
- " 予備代議員 佐々木久夫
杉本圭士郎

- 県医師会理 事 西島康之
- " 副会長立候補者 高橋牧之介
- " 裁定委員立候補者 近藤純造
- 日本医師会代議員立候補者 高橋牧之介
- 県医師会医師国保組合

理 事 高橋牧之介(再)
議 員 高橋 孝(初)



再任された高橋牧之介先生

平成 5 年 度

岩 手 県 民 健 康 講 座

日時 平成6年1月19日(木)・26日(木)・2月2日(木)

場所 玉山村中央公民館

—— 主 催 ——

岩手県・岩手県医師会

会場一ぱいの盛況のもと開催

—— 玉山村会場 ——



平成5年度岩手県県民健康講座

玉山村中央公民館の県民健康講座

平成5年度岩手県民健康講座は、玉山村を開催地として、予定されているカリキュラムにより、平成6年1月19日(木)、1月26日(木)、2月2日(木)の3回にわたって行われた。

岩手郡は地区8ヶ町村あるため、毎年同じ場所での開催ではないのでしばらくぶりの健康講座ということもあって、関係者の努力により巡回バスを用意して、毎回220名を超える多数の村民の参加を得て大変な盛況であった。

また今回の演者は玉山地区の地元の先生方と保健所（盛岡保健所管内）栄養士さん等による講演であったため顔馴染の先生の解り易い話しであり、村の関係者及び地元の熱意が感じられる健康講座であった。

初回1月19日は、13時より開講式が行なわれ、盛岡保健所長（一ノ渡義巳先生）のユーモアに富んだ御挨拶、岩手郡医師会副会長（上田靖彦先生）の内視鏡等のお話し、玉山村長（工藤久徳氏）の歓迎の御挨拶があり、その後第一日目の講座に入りました。出席者は239名で会場はほぼ満杯になりました。1月26日は13時30分より第二回目の講座に入り、出席者数230名で八角先生の「おなら」の話で会場は笑いにつつまれました。2月2日の最終日は出席者数222名で3回とも220名以上の出席であった。

13時30分より第3回目の講座に入り、秋浜先生はじめ解り易い楽しい講座となりました。16時30分より閉講式に入り、高橋牧之介郡医師会会長により代表者（最高令者）に終了証書が授与され、終了者は238名で、その後、盛岡保健所長、玉山村長の御挨拶をいただき無事閉講となりました。その後は18時より楽しい反省会がはじまり、本年度の岩手県民健康講座が終了いたしました。

（文責 岡本）

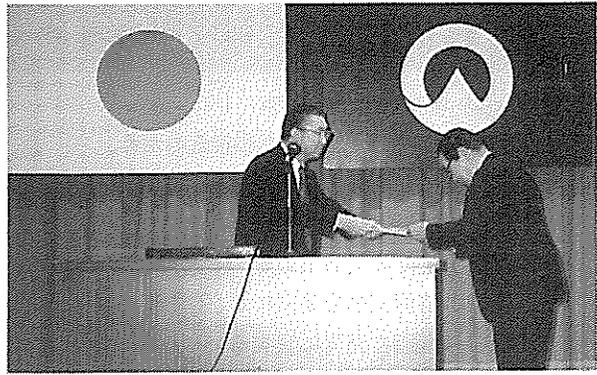
平成5年度岩手県民健康講座カリキュラム

場所：玉山村中央公民館

回	開催年月日	講座内容	時刻	担当講師	所属
1	平成6年 1月19日(水)	開講式	13:00~13:30	開会の辞 挨拶	盛岡保健所 盛岡保健所所長 岩手郡医師会会長 玉山村村長
		1. 精神保健について	13:30~14:20	岡本 彰	玉山岡本病院院長
		2. 健やかな高齢期を迎えるための食生活	14:25~15:15	小堀 亮子	盛岡保健所栄養士
2	平成6年 1月26日(水)	3. 腰痛について	15:30~16:20	清水 妙正	波民中央病院院長
		4. 歯と健康について	13:30~14:20	千葉 晃揮	波民歯科クリニック院長
		5. 40歳からの健康管理	14:25~15:15	鈴木 久子	盛岡保健所主任保健婦
3	平成6年 2月2日(水)	6. 胃癌と大腸癌	15:30~16:20	八角 正司	八角病院院長
		7. 高血圧とはどんな病気か	13:30~14:20	秋浜 晃	秋浜医院院長
		8. エイズについて	14:25~15:15	一ノ渡 義巳	盛岡保健所所長
		9. 暮らしと健康	15:30~16:20	高橋 牧之介	岩手郡医師会会長
		閉講式		終了証書授与 挨拶	岩手郡医師会会長 盛岡保健所所長 玉山村村長
				閉会の辞	盛岡保健所



秋 浜 晃 先生



修了証を授与する高橋会長（左）

葛巻地区だより

健康講話を開設！

2月18日(金) 午後7時30分

小田林業研究センター(葛巻町)で開講式

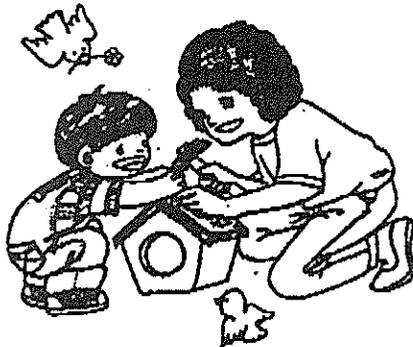
健康で生きがいのある人生を送ることはだれしもの願いです。

人間が成長し生活していくための基本は健康な体であり、きちんとした体力を持つことが必要です。

小田自治会では地区民のための健康講話を開設します。近所誘い合っておいでください。

小田地区健康講話カリキュラム

月 日	時 刻	講 話 内 容	担当講師	備 考
2月18日(金)	19:30~ 19:45~20:45	開講式 頸肩腕症候群について	近 藤 純 造	近藤医院院長
2月22日(火)	19:30~20:30	ボケについて	早 藤 一 雄	早藤医院院長
3月2日(水)	19:30~20:30	健康な老後を送るために	西 島 康 之	西島医院院長
3月8日(火)	19:30~20:30	脳と心臓の血管障害について	佐 藤 郁 郎	葛巻病院院長



第6回岩手郡地区学校保健・安全・給食研究大会

趣 旨

- (1) 岩手郡地区の学校保健活動推進のため、学校保健に関する専門的研修を深め、会員相互の資質の向上を図る。
- (2) 児童・生徒の健康増進を図るため、学校保健の情報交換を緊密にし、学校保健担当者の執務の充実に資する。

主 催 岩手郡地区学校保健会

日 時 平成6年2月19日(土) 14:00～

会 場 盛岡市中央公民館 大会議室

(1) 研究発表

- ① 滝沢村学校保健会
 テーマ『積極的な健康づくりをめざして』
 -成人病予防の保健指導を通して-
 発表者 姥屋敷小学校(滝沢村)
 養護教諭 丹野登志子先生

② 雫石町学校保健会

テーマ『考え、選んで健康づくり』

-子どものときから成人病予防-

発表者 セツ森小学校(雫石町)

養護教諭 氏家英子先生

(2) 講 義

① 伊藤小児科医院(西根町)

院長 伊藤伸郎先生

『小児肥満の治療と指導方針』

② 佐々木医院(岩手町)

院長 佐々木久夫先生

『成人病総論』

(3) 研究協議(座談会)

座長 西島医院(葛巻町)

院長 西島康之先生

岩手郡地区学校保健・安全給食研究大会に参加して

西根町 伊藤伸郎

本年2月19日、上記大会は盛岡市中央公民館において行われました。

岩手郡地区学校保健会会長、高橋孝先生の御挨拶の後、主題を小児成人病として、研究発表、講義、座談会の順序で会は進行致しました。研究発表では、姥屋敷小学校、丹野登志子先生より『積極的な健康づくりをめざして』、セツ森小学校、氏家英子先生より『考え、選んで健康づくり』と題して発表が有りました。丹野先生からは、成人病予防の具体的な指導状態と学童成人病予防検診の活用状況と今後の活動方針についての発表でした。氏家先生からは、おやつや食事、運動の実態調査とコレステロール値との関連、日頃の成人病予防の指導状況についての発表でした。次に講義として、『小児肥満の治療と指導方針』と題して私がお話をさせていただき、『成人病総論』につきまして佐々木医院院長の佐々木久夫先生よりお話をいただきました。

私は、最近の肥満の増加について述べ、その食事療法と運動療法についての説明を致しました。佐々木先生は、最初に未来人の予想図を配布され、このまま人類が進化および退化をとげると、その姿は頭と目が大きく、顎が小さな宇宙人のような姿になってしまう事を示し、現在までの人類の歴史の中での成人病の変化を話され、今後の子供達に対する危惧を述べられました。次に座談会に入り、西島医院院長の西島康之先生の司会で、小児の肥満と成人病予防についての質問や意見交換が有りました。成人病を予防するという目的で、現在検査や生活活動が学童に対して行われているわけですが、複雑な現代の環境の中で、関係の方々が四苦八苦なさっているのが感じられる座談会でした。私は、予防医学の原点とも言える問題でしたので、勉強しなければいけないあとの思いを新たにして帰って参りました。

療養給付改定について

— 岩手県医師国民健康保険組合 —

岩手県医師国民健康保険組合の第88回通常組合会は、平成6年2月19日(土)県医師会館において開催され、従来組合員本人の療養給付割合が10割であったものが、平成6年4月1日より9割給付と改定されました。

尚、家族、従業員の加入者については従来通り。

療養の給付割合

岩手県医師国民健康保険組合

被保険者及び診療区分		改定前		改定後	
		平成6年3月31日まで		平成6年4月1日より	
組合員	入院	10	割	9	割
	入院外	10	割	9	割
家族	入院	8	割	8	割
	入院外	8	割	8	割
従業員	入院	8	割	8	割
	入院外	8	割	8	割

特定機能病院に対する診療情報提供料の具体的算定方法について

平成6年2月1日付で岩手医科大学附属病院が特定機能病院として厚生大臣の承認を受けました。

それに伴ない、各医療機関より特定機能病院となる岩手医大付属病院に紹介する際の診療情報提供料において、変更となる点があるのでお知らせいたします。

記

1. 診療情報提供料は、従来は入院を前提とする場合のみ200点を算定できましたが、特定機能病院では検査等の紹介でも130点を算定できることとなります。
2. 紹介時には必ず紹介状を持たせるようおすすめ願いたく周知方お願い致します。

(紹介状) 紹介先病院用

診療情報提供書 (1)

岩手医科大学附属病院 平成 年 月 日

〒 _____ 先生

紹介元医療機関の所在地及び名称

電話番号
FAX番号

医師氏名 印

よりがな 姓 氏名 生年月日	性別 男・女 職業 年 月 日 (歳)
病 名	
紹介目的 (検査・治療・手術・その他)	
既往歴及び家族歴	
現状経過及び検査結果	
検査結果	
現在の場所	
備 考	

備考 1. 必要がある場合は病歴に記入して添付してください。
2. 必要がある場合は添付診断のフィルム、検査の記録を添付してください。

情報提供料の具体的算定方法

診療情報提供料は所定の要件を満たした紹介状により紹介（逆紹介）した場合に下記点数を算定することができる。

1. 診療所が特定機能病院に紹介する場合
 - イ. 診療所から特定機能病院での入院を前提に紹介する場合、診療情報提供料（Ⅰ）の「1」200点が算定できる。
 - ロ. それ以外（入院前提以外）の場合は、診療情報提供料（Ⅰ）の「3」130点が算定できる。
2. 一般の病院が特定機能病院に紹介する場合

診療情報提供料（Ⅰ）の「3」130点が算定できる。

3. 特定機能病院が診療所へ逆紹介する場合
 - イ. 退院時（退院患者）には、診療情報提供料（Ⅱ）「1」420点が算定できる。
 - ロ. それ以外（退院時以外）の場合は、診療情報提供料（Ⅱ）の「3」130点が算定できる。
4. 特定機能病院が一般の病院へ逆紹介する場合

情報提供料（Ⅱ）の「3」130点が算定できる。

《具体的算定方法》

		診療情報提供料	
診療所 → 特定機能病院	入院前提（Ⅰ）	— 1	200点
	上記以外（Ⅰ）	— 3	130点
診療所 → 紹介外来型病院 （特定機能病院である場合を含む）	（Ⅰ）	— 2	260点
診療所 → 病院	入院前提（Ⅰ）	— 1	200点
診療所 → 診療所	（Ⅲ）		100点
病院 → 特定機能病院	（Ⅰ）	— 3	130点
病院 → 紹介外来型病院 （特定機能病院である場合を含む）	（Ⅰ）	— 2	260点
* 病院 → 診療所	退院時（Ⅱ）	— 1	420点
紹介外来型病院 → 特定機能病院	紹介元への逆紹介に限り（Ⅱ）	— 2	260点
紹介外来型病院 → 病院	紹介元への逆紹介に限り（Ⅱ）	— 2	260点
紹介外来型病院 → 退院時	（Ⅱ）	— 1	420点
	紹介元への逆紹介に限り（Ⅱ）	— 2	260点
特定機能病院 → 紹介外来型病院	（Ⅰ）	— 2	260点
特定機能病院 → 病院	（Ⅱ）	— 3	130点
特定機能病院 → 診療所	退院時（Ⅱ）	— 1	420点
	退院時以外（Ⅱ）	— 3	130点
特定機能病院である 紹介外来型病院 → 特定機能病院	紹介元への逆紹介に限り（Ⅱ）	— 2	260点
特定機能病院である 紹介外来型病院 → 病院	（Ⅱ）	— 3	130点
	紹介元への逆紹介に限り（Ⅱ）	— 2	260点
特定機能病院である 紹介外来型病院 → 診療所	退院時（Ⅱ）	— 1	420点
	紹介元への逆紹介に限り（Ⅱ）	— 2	260点
	上記以外（Ⅱ）	— 3	130点

「特定機能病院」とは？

岩手医科大学附属病院は、平成6年2月1日付で特定機能病院として厚生大臣の承認を受けました。

☆☆☆☆☆☆☆☆

Q：特定機能病院とはどのような病院ですか？

お支払いいただくこととなります。

A：特定機能病院とは、地域の病院、診療所（医院）などと連携をとり、高度の医療を提供することを目的とする病院（大学病院）のことです。

Q：自己負担金（1,030円）は毎回支払うのですか？

Q：診療に何か変わりがあるのですか？

A：いいえ、その自己負担金は当院で2月1日以降に受診され、さらに疾病等によっても異なりますが、通常初受診に1回だけお支払いいただくものです。

A：特定機能病院になりましても、来院される患者さんの診療につきましては従前と変わりありません。又、特別な手続きも必要ございません。

現在、当院で診療を受けている再来患者さんは、お支払いいただかなくても結構です。

ただし、特定機能病院はできるだけ多くの紹介患者さんを診療する必要があるため、当院を受診される場合には、できるだけ地域の病院、診療所（医院）からの紹介状をお持ち下さるようお願い致します。

Q：入院の費用はどうなりますか？

Q：市町村等で受けた検診後の検査結果報告書は紹介状になりますか？

A：入院費はごく僅かではありますが、変更になります。

A：健康保険法では、紹介状として認められておりません。

詳しくは医事課入院係にお問い合わせ願います。

紹介状は健康保険法で定められた書式の紹介状が必要となります。

Q：なぜ特定機能病院制度ができたのですか？

Q：紹介状があればどうなりますか？

A：平成4年7月に医療法が改正され、新たに「特定機能病院制度」が設けられました。これは、医療技術の進歩、人口の高齢化、疾病構造の変化等により、患者さんの心身の状況に応じた良質かつ適切な医療を、効率的に提供することを目的としております。つまり、地域の病院、診療所（医院）などと大学病院などが、機能に応じた役割分担をするための制度です。「特定機能病院」は主に大学病院が対象となりますが、厚生大臣の承認を受ける必要があります。

A：紹介状を持ってこられた場合には、保険診療になりますので、医療費に大きな違いはございません。

Q：紹介状がないとどうなりますか？

A：紹介状がなくても、今までどおり保険診療で診療が受けられますが、初診時に通常の医療費のほかに、規定により自己負担金として、1,030円（消費税込み）を

岩手医科大学附属病院はこのような状況をふまえて、厚生大臣より「特定機能病院」の承認を受けました。

☆☆☆☆☆☆☆☆

これからも皆様方から、より一層信頼される「高度の医療を行う病院」として努力してまいりますので、皆様方のご理解とご協力をお願い致します。

岩手医科大学附属病院

岩手県医師会親睦スキー大会参戦記

—— 2月13日(日)岩手高原スキー場にて開催 ——

雫石町 上原 充郎



県医師会親睦スキー大会表彰式

“ゼッケン〇番〇〇先生スタートします”とスターターの声。“プーッ・ピッ・ピッ・ピッ・ピッ・ピッ・ピッ・ポーン”スタートの時を刻むコンピューターの無表情な機械的な音。高鳴る鼓動で果敢にスタートを切る各選手。滑走する選手の実況をユーモアをまじえてマイクでアナウンスする遠藤岩手高原スキースクール校長。

二年ぶりに同好会として再会された岩手県医師会親睦スキー大会は2月13日、岩手高原スキー場において石川県医師会長の開会の言葉で開始された。今大会は県医師会員のみ(今迄は家族・職員も可)ということもあり、エントリー数39名と少し寂しい感があったが、いずれもスキー大好き人間の面々である。小山田恵先生の選手宣誓は“常日頃の多忙な診療を忘れ、骨折等怪我のない様に楽しいスキー”を誓うものだった。

競技は10時にスタートされた。外は生憎の荒天で雪が強風に舞い、時々コースが見えにくいこともあった。だが各選手とも果敢に、注意深くポールにつっこんでいた。

今回の大会は大回転競技で、同じコースを2回滑り1回目のタイムと2回目のタイムの差の少ない人を上位者と決定した。その結果第1位の松本登先生(水沢)のタイム差は0.03秒であった。またベストタイムは赤坂俊樹先生(盛岡)の24秒38であり、彼は高校時代はスキー部だったとのことでした。

競技終了後、岩手高原ホテル大広間にて、表彰式と懇親会が行われ、石川会長より上位入賞者の表彰及び参加者全員に参加賞の授与が行われた。石川会長は2回ともみごとに完走し、特別賞を授与された。又今大会には特別参加として松本義幸岩手県環境保健部長が参加され、これ又2回とも転倒せずにみごとに完走された。同氏は(熊本県出身)スキーを初めて6週間とのことでしたが仲々の滑りをみせてくれました。来年の大会には「松本賞」を用意するとも挨拶の中でお話になっておりました。

とかくスキー大会というと、回転・大回転等の勝負を競う大会のように思われがちだが、もっと気楽に、県医師会員が一同に会し、一日楽しくスキーを楽しみ、より一層、会員相互の理解を深めるような、そんな大会にできたらいいなア…と思いました。

今大会は同好会としては第1回目のため、計画・運営・実施する発起人として、野呂甚吾先生(水沢)、斎藤裕先生(紫波郡)、箱石勝見先生(盛岡市)、栗原英夫先生(盛岡市)、鷹齋研一先生(水沢)、上原充郎(岩手郡)の6名と、製薬会社、薬品卸会社、岩手高原スキー場、同スキースクールの協力のもとに、盛大に楽しく終了することが出来ました。出来ることなら、来年も今迄以上に多くの参加者が集い、楽しい、盛大な大会にしたいものと考え、参戦記と致します。

随想

『春をさわる』

栗石町 高橋 孝

「梅一輪一輪ほどの暖かさ」

この句は皆さん良く御存知の1654年代の嵐雪の句ですが、寒梅と言う題なそうです。

冬季の句で、寒梅が、一輪咲いた。その花を見ていると、冬とはいえ、わずかながら一輪ほどの暖かさがもう感じられることだとの意味で、春を待つ心を巧みにうたっています。その意味でもこれは「梅一輪、一輪ほどの」と切って読むべきで「一輪々々ほどの」と続けて読んで、梅が一輪ずつ開くにつれて次第に暖かさが増してくる、との解釈は誤りなそうです。それはさておき、先生方は御存知ないことと思いますが、私共雪国では「硬雪」と言って、日中日陽しが強く、50cm位の残雪の表面が太陽熱で暖められて、一時解けて、更に次の朝冷えこむと、再度雪の表面が硬く凍ると雪の表面が硬くなり、大人でも雪の上を歩いても、ぬかることなく、どんなに速く走っても歩いて行けるんです。これを硬雪と言って、この様なことで私共は、雪の上でも春が近いことを、身体で春をさわるんです。これは神戸の書先生に手紙を書いた時の一説ですが、色々な自然の手による、彩りで春を感じます。

松や杉の葉の色も冬は黒く冬色で、春が近づくと少し緑が加わって来ます。

又、遠くの中国から黄色いお客様が飛んできて、雪の表面を黒く染める「黄砂」も春を感じさせてくれますし、ましてや、梅・桜の蕾がふくらんだり、猫柳の銀の綿芽がふくらんだりすると、もう雪も解けて春です。編集先生のアンコールでもありませんが、万葉集を見て、この「解ける」で歌をさがすと、仲々色っぽい歌があります。

「昼解けば、解けなへ紐の我が背なに
相寄るとかも 夜解け易け」

即ち、昼解ければ、解けない紐が、わたしの夫にあえるしるしか、夜解けやすいことだ、との意味です。

いづれどちらの「トケル」でも良い、騙されて買った少しの株だが、下って下って困る。日・米の経済摩擦もトケて下されば良いのにと願うこのごろです。



岩手郡医師会役員会

日 時：平成6年1月29日(土) 午後3時半
場 所：盛岡グランドホテル・アネックス

出席者：高橋(牧)、高橋(孝)、高橋(克)、
西島、和田、根本、坂井、上田、
八角、及川、嶋、篠村、岡本、
上原、佐藤

〔協議〕

岩手郡医師会臨時総会（2月12日）開催
準備事項について（於 県医師会館3F）

- (1) 平成6年度岩手郡医師会事業計画
- (2) 平成6年度岩手郡医師会一般予算書(案)
- (3) 平成6年度休祭日当番医予算書(案)
- (4) 任期満了による役員改選について

〔報告〕

- (1) 第1回 岩手県医師会生涯教育委員会
- (2) 第48回産業医部会幹事会
- (3) 第2回学校医部会幹事会
- (4) 第63回勤務医部会幹事会
- (5) その他
- (6) 田辺製菓・新薬紹介

〔懇親会〕

編集後記

- 本年2月は郡医師会の臨時総会があり次年度の予算が承認されたあと、任期満了による次期役員改選が行われたが、ほぼ前役員留任となった。顔ぶれを見ると佐藤郁郎先生が今期で副会長を辞任したため、新たに西島康之先生が就任し、また理事には今まで鑑事を務めていた佐々木久夫先生が就任した。この程度の変動でその他は再任となった。高橋現会長は、昭和63年2月の総会で選任されて以来4期目となる。
- 今総会において、議長選出の段になって、岩手郡医師会定款には「議長をおく」という項はないということで、これについてはいづれ追加事項として改正しなければならないと思われる。
- 会長挨拶の中でも触れましたが、本年4月には診療報酬が改正され、4月には3.3%、また10月には1.5%程度の引き上げが行われるとのこと。実賃上げ幅は2.7%となり、前回改定時の2.5%を上回ったのは医療機関の経営悪化を配慮したものとなっている。
- 恐竜ブームを反映して「恐竜の国」をテーマにして始まった第27回岩手雪まつりは、雫石町小岩井農場に19基の雪像が作られ、2月5日～13日まで開催された。その間、岩手県雪合戦大会とか、子供キャラクターショー、雪まつり花火大会、郷土芸能など多彩な催し物が計画された。好天に恵まれた2月6日(日)には、小岩井遊園地から国道46号線（小岩井十字路を含めて）までつながるマイカーの縦帯がみられ、家族連れやカップルで賑わい、子供達は恐竜からのスベリ台で歓声をあげていた。
- 県医師会スキー大会は2月13日(日)岩手高原スキー場で行われたが、約30数名の参加者のうち当医師会より唯一参加した上原先生よりその様子が報告された。年々スキー人口は増えているが、今大会のように医師だけの競技会（例年の家族の参加はなし）となるとこの程度の参加人数と思われる。また今大会は比較的斜面の緩やかなコースが選定されたとのこと、スキーを楽しんでいる郡内の会員も次回より多数参加されることを切望する。
- 「おらほの先生」は今回休載。(M. S記)